

教科(科目)	家庭基礎	単位数(時数)	2 単位 (74)	学年 (科)	2 学年
使用教科書	・実教出版 「家庭基礎 パートナーシップでつくる未来」				
副教材等	・実教出版 「ニュービジュアル 家庭科 資料+成分表」				

1. 学習目標

人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2. 指導の重点

社会状況の激しい変化の中、まず現在の状況や将来にむけての課題を理解し、常に問題意識を持って情報を適切に選択し、実体験や周囲の経験者の意見に触れることなどを通して、自分の生き方を考えさせ、さまざまな共生を目指し、自立して生活する態度と実践する力を育成する。

3. 評価規準と評価方法

評価規準

○関心・意欲・態度

家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

○思考・判断・表現

家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。

○技能

家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。

○知識・理解

家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

評価方法

- ・ 定期考査の成績
 - ・ 授業への取り組み方や授業態度、提出物の内容及び提出状況
 - ・ 被服実習・調理実習・体験学習・それに伴うレポートへの取り組み及び内容
- などから総合的に評価する。

4. 学習アドバイス

- ・ 何事にも意欲的・積極的な姿勢で取り組もう。
- ・ 教科書を基本として、知識の習得を目指そう。
- ・ 同時に、実践を通してその知識をさらに深め、また努力することから得られる達成の喜びを感じてほしい。
- ・ さらに、実生活に楽しく生かしていくことを通して、自立への力をつけよう。

(担当：高波 庸子)

月	単元・考査等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	・家庭科を学ぼう 1編 人とかかわって生きる 1章 自分らしい生き方と家族	8	家庭科の学習目的 1 自分を見つめる 2 自立した生き方、共に生きる人生 3 共に生きる家族 4 家族に関する法律 5 私たちの生活を支える労働と生活時間	・家庭科では、一生を見通し、生活を広げることを学習する。 ・自分自身や現在の社会状況を客観的に知り、将来を見通した人生設計への課題を見つけることができる。 ・青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。 ・結婚、家族・家庭の多様化や、時代とともに変化する役割について理解できる。 ・家族に関する法律についての知識を身につけている。 ・生活にかかわる労働の意義、また、現在の労働環境などについて理解できる。 ・現在の生活時間の状況をふまえ、生活時間と労働との関係について理解できる。
5 6	2編 生活をつくる 2章 衣生活をつくる	14	1 人と衣服のかかわり 2 衣服の素材を見てみよう 3 衣生活の管理 4 衣生活と資源・環境 5 すべての人が快適な衣生活を	・衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識を身につけることによって、衣服を適切に選択し、管理することができる。 ・衣類の購入から廃棄まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。 ・被服製作実習。
7	3編 消費者として自立する 1章 消費行動を考える 2章 経済的に自立する (前期期末考査)	10	1 社会の変化と消費生活 2 消費者の権利と責任 3 持続可能な社会環境 1 経済のしくみを知る 2 ライフステージと経済計画	・消費者の権利と責任などについて理解できるとともに、現代の消費生活の課題について認識できる。 ・消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。 ・家庭生活と資源・環境との関係についての知識を身につけている。 ・家庭経済・国民経済などのしくみについて理解でき、短期・長期的経済計画の重要性を認識できる。
9 10 11	2編 生活をつくる 1章 食生活をつくる	18	1 私たちの食生活 2 栄養と食品のかかわり 3 食品の選び方と安全 4 食事の計画と調理 5 これからの食生活を考える	・食事の意義や役割、食生活をとりまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。 ・栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。 ・調理実習。
12	1編 人とかかわって生きる 2章 子どもとかかわる	10	1 子どもを知る 2 発達のすばらしさ 3 子どもの生活 4 親になることを考えよう 5 すこやかに育つ環境	・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 ・子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。 ・子どもの発達段階において、子どもをとりまく人とかかわり、地域環境・社会環境の重要性、子どもの福祉について理解できる。
1	1編 人とかかわって生きる 3章 高齢者とかかわる	8	1 高齢社会に生きる私たちの暮らし 2 高齢者を知る 3 豊かな高齢期を迎えるしくみ	・高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。 ・高齢期を支える社会的な制度・しくみについて理解している。 ・高齢者の生活における地域社会の役割、地域福祉の重要性について理解できる。
2	1編 人とかかわって生きる 4章 社会とかかわる	4	1 支えあう暮らしとは 2 私たちの社会福祉 3 地域社会の一員としてのボランティア活動	・社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。 ・ボランティア活動の意義について理解できる。
3	2編 生活をつくる 3章 住生活をつくる (後期期末考査)	2	1 人と住まいのかかわり 2 住まいを計画する 3 健康的な住まい環境 4 安全な住まい環境 5 これからの住まいを考える	・住まいの機能・役割、またライフステージや家族構成などと住まいの関係などについて理解している。 ・安全で快適な住まいや、社会環境・地域環境についての知識を身につけ、現在の住生活の課題についても認識できる。